



令和2年度 健康・体力づくり推進フォーラム

健康・体力づくり実践研究校
神奈川県立山北高等学校

まずはじめに、山北高等学校の沿革についてです。

山北高等学校は昭和17年に山北町立山北実科高等女学校として開校しました。

その後、昭和21年に県立移管されます。

昭和25年に「神奈川県立山北高等学校」と改称されるとともに、男女共学制が実施され、昭和45年に現在地に移転しました。

平成7年に「体育コース」(40名)が設置され、平成25年に体育コースを「スポーツリーダーコース」に改称しました。

平成29年に、普通科専門コースの解消に伴い「スポーツリーダーコース」の募集を停止し、現在に至っています。

また、令和元年度より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(文部科学省)の指定(令和元年～3年)を受けています。

テーマ

KANAGAWA

YAMAKITA

地域に根差した 指導者を目指して

～地域の子ども達への指導実践を通して～

YAMAKITA HIGH SCHOOL, Since 1942

スポーツリーダーコースは募集停止となりましたが、その精神や一部カリキュラムを継承しながら、体育・運動・スポーツの指導者を目指した「スポーツ系」クラスを設置しています。

スポーツ系クラスは、2年生より1クラス規模で展開しています。

本研究では、これまで培ってきた取組みと新たな取組みについて、「指導者の育成」をねらいとしたスポーツ系クラスの生徒の意識が、どのように変化していくかを検証します。

研究の概要

スポーツ系クラスの生徒対象
(2年生40名 3年生 40名)

地域への指導実践を通して、
意識の変化を調査

対象はスポーツ系クラスの生徒、2年生40名、3年生40名です。
2年生は学校設定科目「フィールドスポーツ」において、
3年生は同じく「スポーツ指導法」「コミュニティースポーツ」において実施しました。
山北町の幼稚園、こども園、小学校、中学校等への実習を通して、生徒の意識の変化をアンケート調査にて検証します。

令和元年度 指導実践及び研究の流れ

- 5月：アンケート調査
- 6月：小学校、中学校 新体カテスト補助
幼稚園実習
- 10月：跳び箱運動、マット運動授業補助
- 11月：幼稚園実習（大運動会 in 山北高校）
- 12月：幼稚園実習
- 1月：アンケート調査

令和元年度の研究の流れです。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策により、各校種との連携した実習については実施見送りとなりました。

ここでは昨年度の活動についての報告と調査結果について発表します。



実習に際しては、県教育委員会教育局保健体育課の指導主事の協力のもと、事前学習等を行い、十分安全に配慮したうえで実施しました。

＜事前学習の資料＞

- ・新体カテスト実施方法参考資料(平成31年4月 県立体育センター)
- ・小学校 体育「跳び箱運動」の指導のポイント(添付pdfファイル)
- ・まるわかりハンドブック(文部科学省)

指導実践内容

山北町立川村小学校
新体カテスト補助



山北町立山北中学校
新体カテスト補助

令和元年6月に実施された小学校、中学校への「新体カテスト」の補助の様子です。

各種目の行い方や注意点等の説明をしたり、種目によっては実際にペースメーカーとして参加したりしました。

指導実践内容



山北町立川村小学校
跳び箱運動 授業補助



山北町立川村小学校
マット運動 授業補助

令和元年10月に実施された小学校での「跳び箱運動、マット運動の授業補助」の様子です。

跳び箱やマットの準備、片付け、注意点等の説明など、担任の先生と協力して実施しました。

実際に高校生が見本を見せたり、ポイントを説明したりするなど、指導者として実習を経験しました。

指導実践内容



山北町立幼稚園、こども園
大運動会 in 山北高校

令和元年11月に実施された幼稚園実習の様子です。写真は、年3回実施されるうちの2回目のものです。

今回は会場を山北高等学校グラウンド及び体育館とし、生徒が企画、運営した「大運動会」を実施しました。

年間を通して、地域の様々な校種に対し、指導者として実習を経験しました。

アンケート調査（四件法）

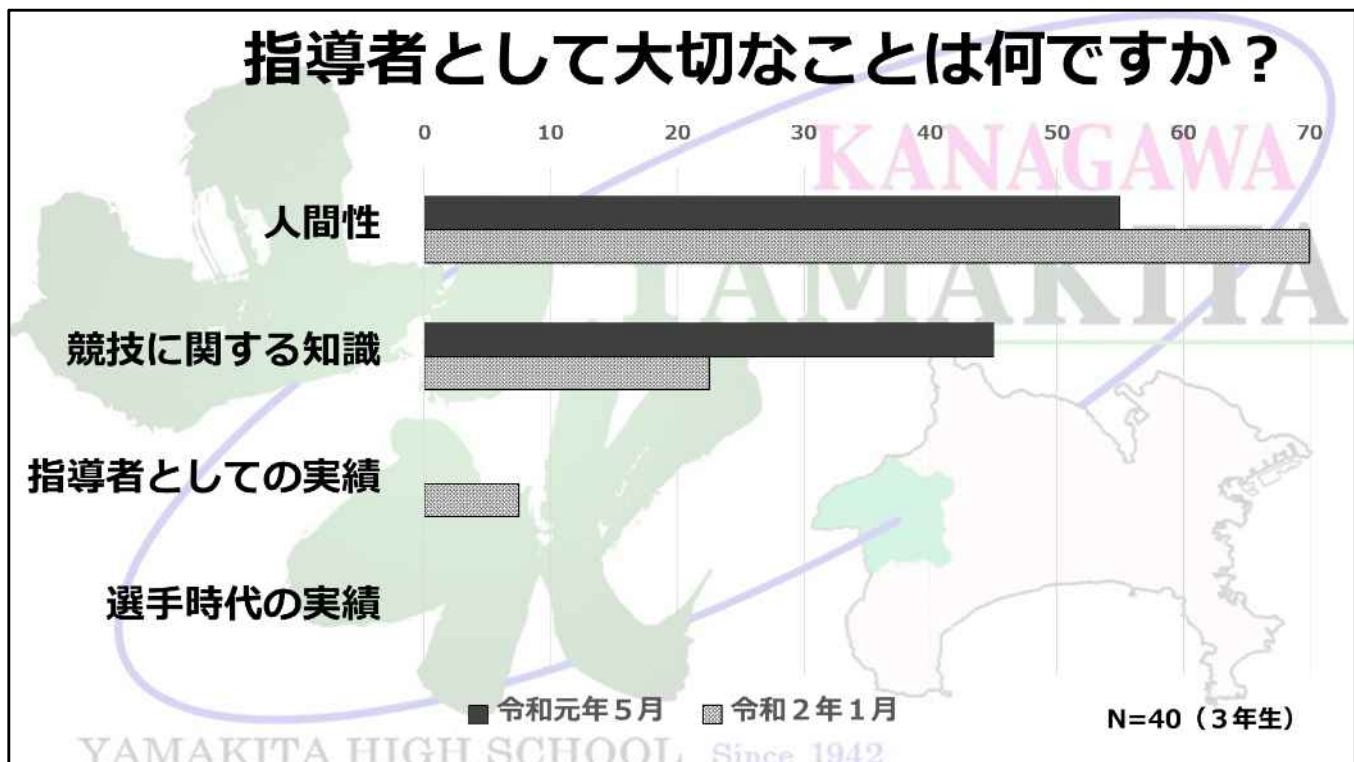
- ① スポーツの指導者像
- ② 地域スポーツに関すること
- ③ 山北町に関すること

アンケート調査の項目です。

参加した生徒に対して、

①スポーツの指導者像（3項目） ②地域スポーツに関すること（4項目） ③山北町に関すること（7項目）

について、アンケート調査を行いました。



「指導者像について」から質問項目「指導者として大切なことは何ですか？」についての回答です。

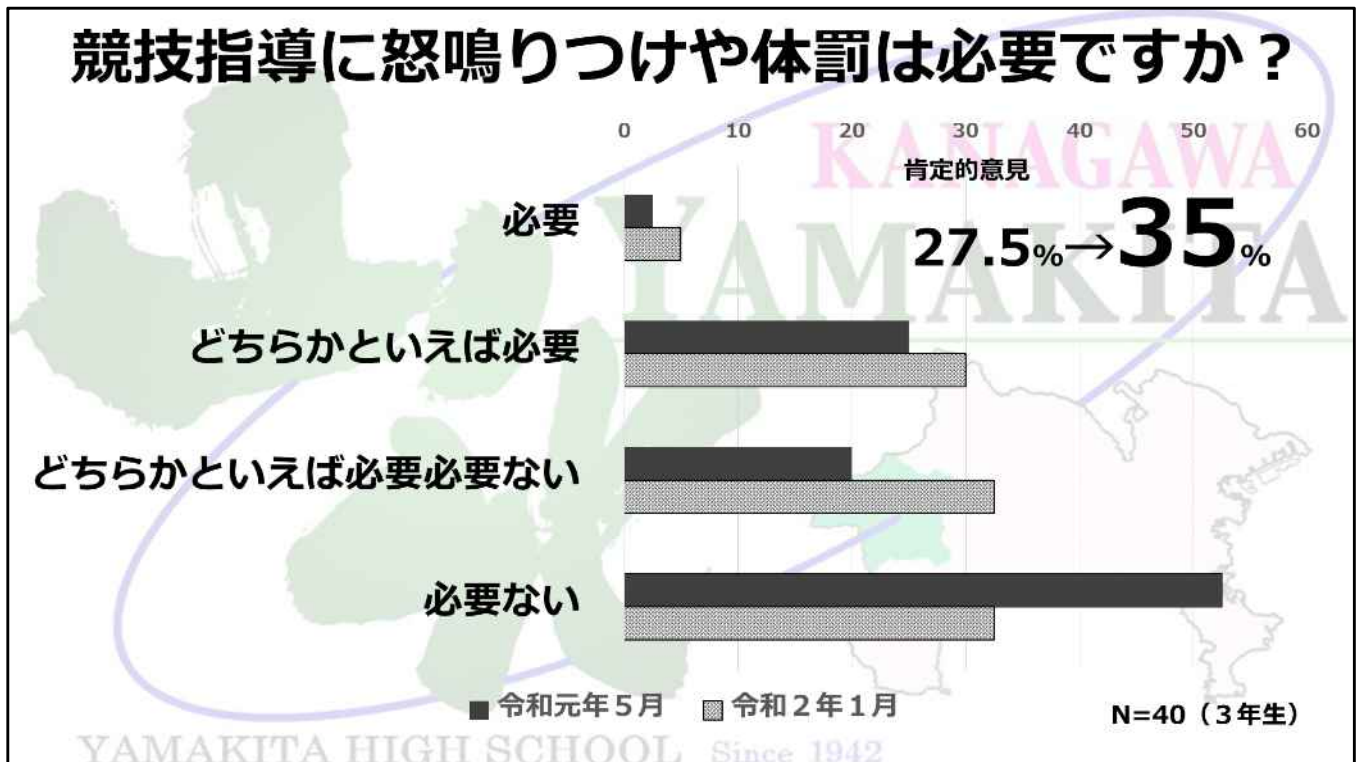
5月(実習前)では、「人間性」と回答した生徒が55%でしたが、1月(実習後)では70%と15ポイント増加しました。
また、「競技に関する知識」と回答した生徒は5月が45%でしたが、1月では22.5%と22.5ポイント減少しました。

＜まとめ&考察＞

「指導者として大切なこと」については、人間性と回答した生徒が最も多くいました。

また、事後では「競技に関する知識」が減少し「人間性」が増加しました。

実習を通して、大切なことは自分自身の成長であると感じた生徒が増加したようです。



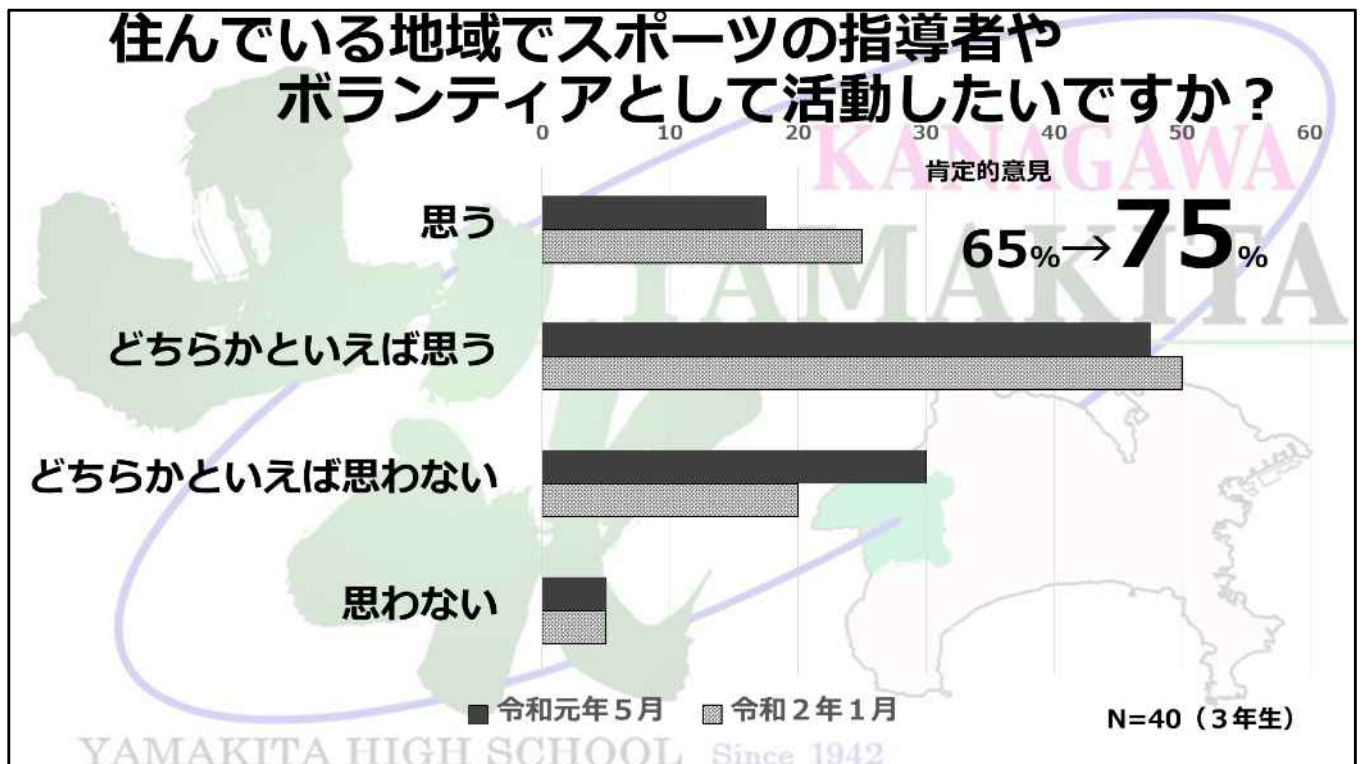
質問項目「競技指導に怒鳴りつけや体罰は必要ですか？」についての回答です。

5月(実習前)は「必要」「どちらかといえば必要」と肯定的な回答が27.5%でしたが、1月(実習後)では35%と7.5ポイント増加しました。さらに、「必要ない」と回答した生徒は、5月では52.5%でしたが、1月では32.5%と20ポイント減少しました。

<まとめ&考察>

競技指導の際の怒鳴りつけや体罰については、必要であると肯定的な意見が事前よりも事後が増加しました。

生徒は実習での難しさを実感し、指導技術の未熟さから、一時的には大きな声を出して指導することなどが必要と感じたのではないかと考えられます。しかし、いかなる理由においても、怒鳴りつけや体罰は許されるものではありません。

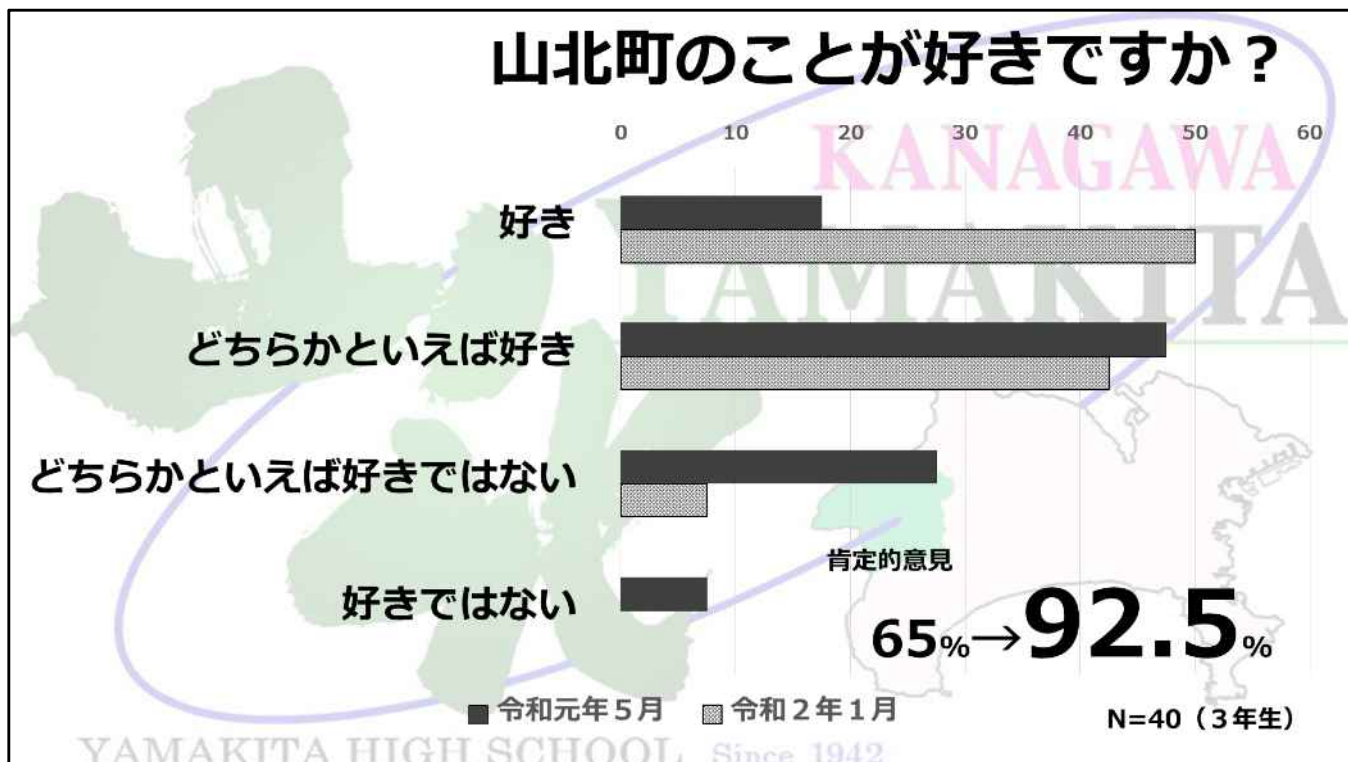


質問項目「地域スポーツに関すること」から「住んでいる地域でスポーツの指導者やボランティアとして活動したいですか？」についての回答です。

5月(実習前)は「思う」「どちらかといえば思う」と肯定的な回答が65%でしたが、1月(実習後)では75%と10ポイント増加しました。

<まとめ&考察>

微増ではあるが、肯定的回答が増加したことから、将来地域で活躍できる人材育成の実習として、期待できるものではないでしょうか。



「山北町に関すること」から質問項目「山北町のことが好きですか？」についての回答です。

5月(実習前)は「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答が65%でしたが、1月(実習後)では92.5%と27.5ポイント増加しました。

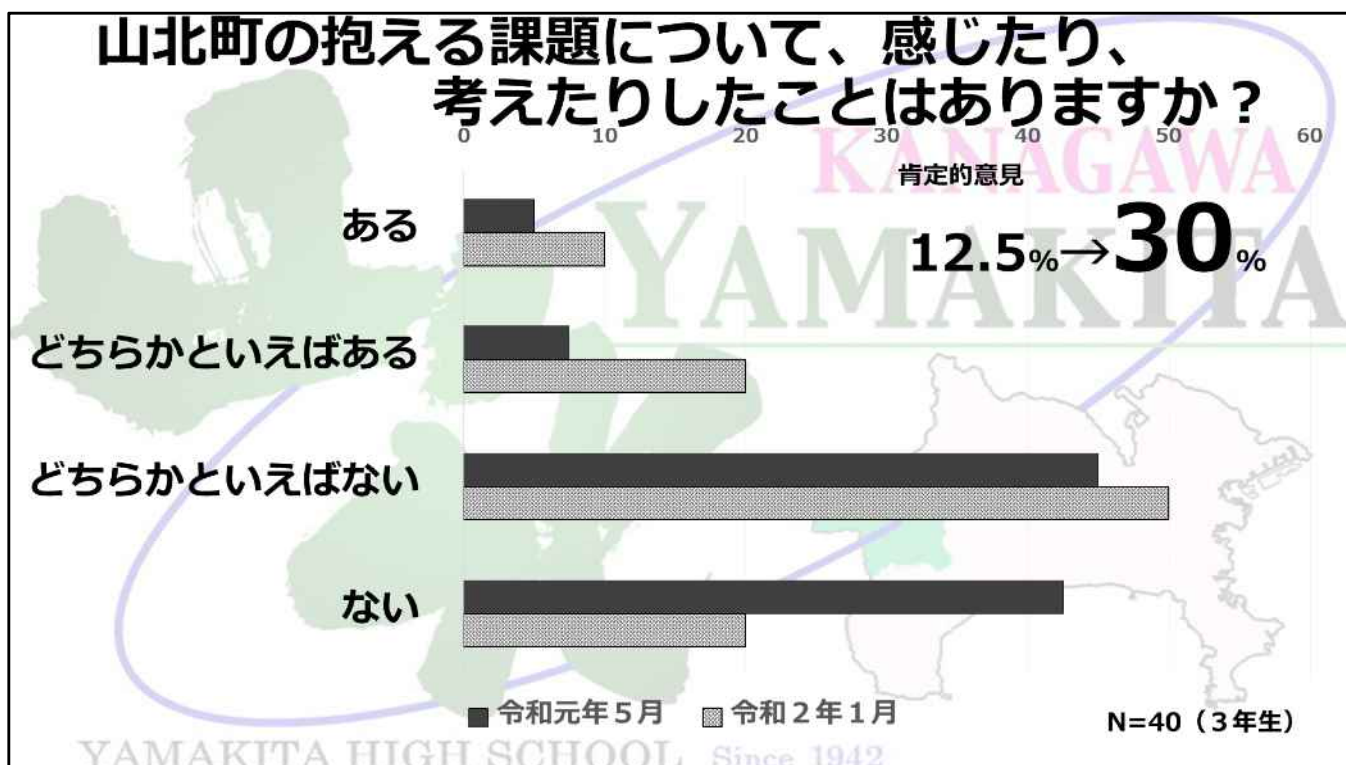
「どちらかといえば好きではない」と回答した生徒は、5月では27.5%、1月では7.5%と20ポイント減少しました。

「好きではない」と回答した生徒は1月では0%でした。

<まとめ&考察>

実習を通して山北町の子ども達と触れ合うことで、町が好きになる生徒が増加しました。

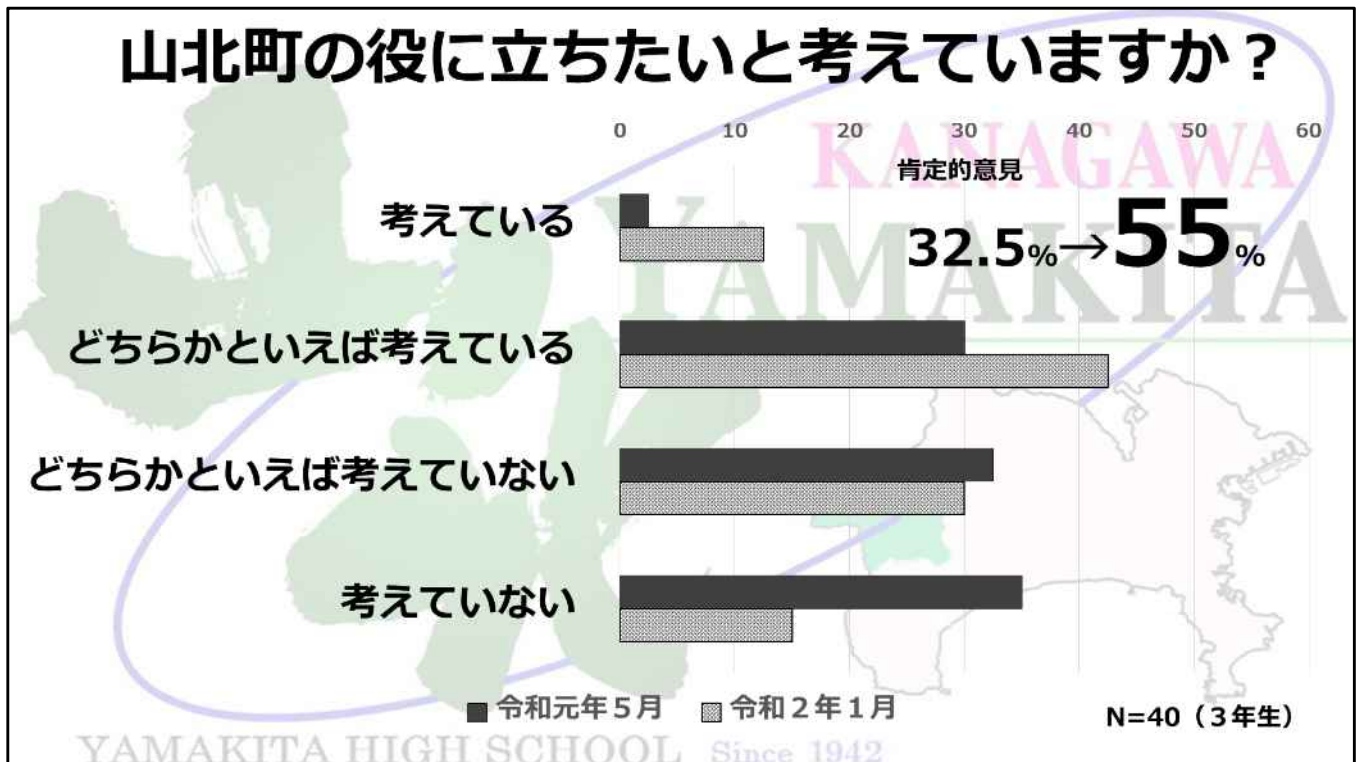
地域と共に歩む学校として、地域と関わることは地域も元気になり、生徒にとっても深い学びにつながります。地域をフィールドとして生徒が学ぶ機会は、今後重要になるのではないのでしょうか。



「山北町に関すること」から質問項目「山北町の抱える課題について、感じたり、考えたりしたことはありますか？」についての回答です。5月(実習前)は「ある」「どちらかといえばある」と肯定的な回答が12.5%でしたが、1月(実習後)では30%と17.5ポイント増加しました。

<まとめ&考察>

実習を通して、山北町の課題を考えるきっかけにもなりました。地域の課題を感じたり、考えたりすることは生徒自身の卒業後の進路にも関わることです。前述したように地域と協働した学習は生徒の進路実現にも深く関わっています。



「山北町に関すること」から質問項目「山北町の役に立ちたいと考えていますか？」についての回答です。

5月(実習前)は「考えている」「どちらかといえば考えている」と肯定的回答が32.5%でしたが、1月(実習後)では55%と22.5ポイント増加しました。「考えていない」と回答した生徒は、5月では35%、1月では15%と20ポイント減少。

<まとめ&考察>

地域の役に立ちたいと回答した生徒も増加しました。

「山北町に関すること」の質問への回答より、山北町の抱える課題を感じ、考え、役に立ちたいと思った生徒へいかにアプローチしていくか、今後の課題と言えるでしょう。

教科横断的に学校全体として取り組むべき内容です。



今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、幼稚園、こども園、小学校、中学校への実習は全て中止のため意識変化のアンケート調査は実施できていません。

そのような影響から他校種へ訪問する実習は実施できませんが、本校保健体育科では、地域の指導者を外部講師として招き、地域とのつながりを持った中で学習をすることを計画しました。

学習活動



総合型地域スポーツクラブ
松田ゆいスポーツクラブ

2年生は学校設定科目「フィールドスポーツ」において、
3年生は同じく「スポーツ指導法」において、
令和2年度9月に外部講師を招き、子どもたちへの指導技術を実践的に学ぶ授業を実施しました。

近隣の総合型地域スポーツクラブに講師をお願いし、楽しみながら運動に取り組むことができる「鬼ごっこを活用したウォーミングアップ」について学習しました。

教員とは違う大人と接することが新鮮であることや、初めて行う運動だったこともあり、生徒は講師に引き込まれるようにキラキラした姿で学習を行っていました。

自由記述（一部抜粋）

- ・皆を楽しませる指導をされていて、勉強になった。
- ・普段やらないスポーツや遊びを知れた。
- ・自分が指導する立場になった時、どれだけわかりやすく教えるかが大切。
- ・簡単なスポーツでも運動になるので、山北でボランティアとしてお年寄りや子どもに教えられたら今後の進路に役立つ。

授業後の生徒へのアンケートから、自由記述について一部抜粋しています。

前向きな感想が多く、自分自身の進路と関わる記述も見られました。

まとめ

- ・ 体育コース設置以来、約20年に渡り地域と協働した学習を実施
- ・ 学校外での実習による生徒の学びの深まりを実感
- ・ スポーツクラスの取組みをいかに学校全体の取組としていくかが課題
- ・ 「スポーツ総合演習」の設置を検討
- ・ 総合的な探究の時間との関わり

本校では、体育コース設置以来、約20年に渡り地域の学校へ実習へ行くなど、地域と協働した学習を実施してきました。

地域協働学習は、カリキュラムマネジメントの視点からも、学校全体で取組むべきことです。今後は、いかに学校全体の取組としていくかが課題です。

保健体育科としては、今後、スポーツクラスのカリキュラムの中で「スポーツ総合演習」の設置を検討しています。

生徒が地域と協働した学習を課題研究として発表することで、スポーツクラスの取組みを学校全体で共有するとともに、地域へ発信することによって地域のスポーツ振興へ寄与するものと考えます。

また、「総合的な探究の時間」で行われている、地域を教材とした課題解決学習との関わりを踏まえた学習活動を実施することにより、学習の深まりや生徒それぞれの進路活動に有益となることが考えられます。

地域と協働するにあたっては、連絡調整や安全面の確保など、通常の授業よりも気を遣う部分が多々あります。しかし、本研究から、生徒の学びや進路実現の観点からとても有益な学習であることが示されました。

現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施困難な状況ではありますが、地域の子どもたちの運動への興味・関心を高めることや、地域のスポーツの推進・発展に寄与することが期待できます。

今後も地域と一緒に、地域協働学習の推進に努めていきたいと考えていま

す。